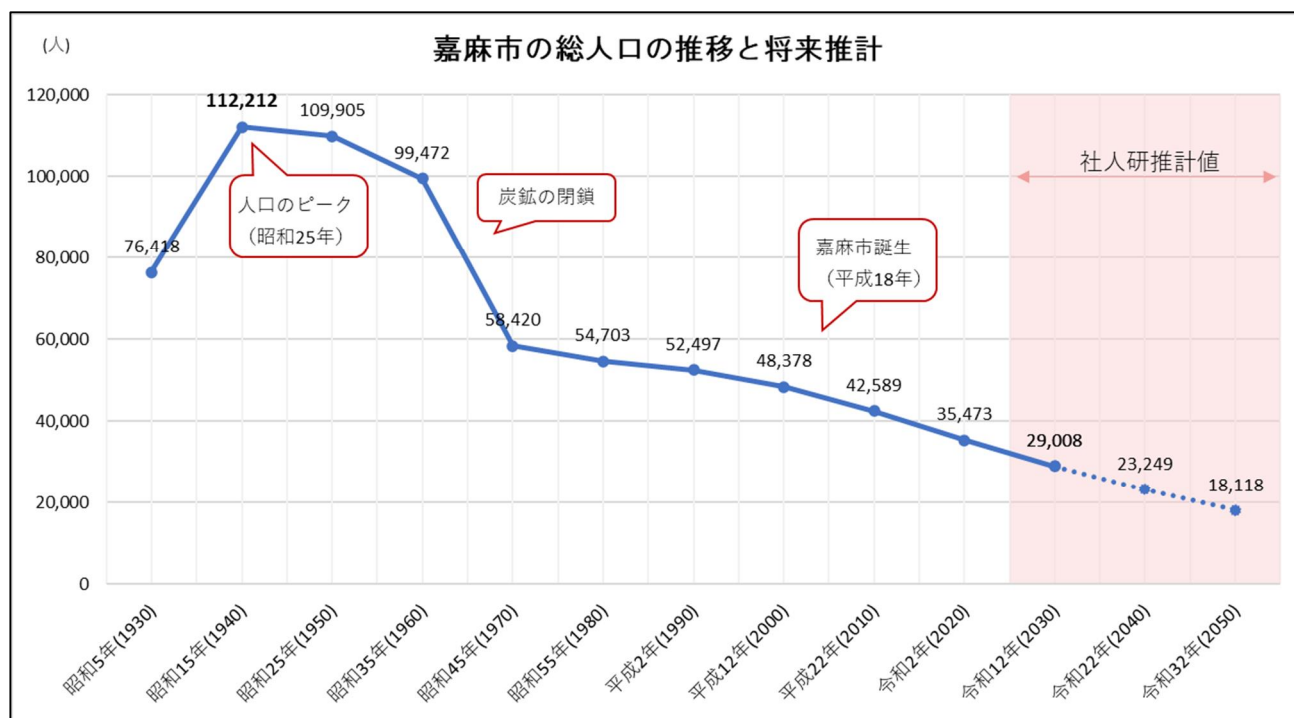


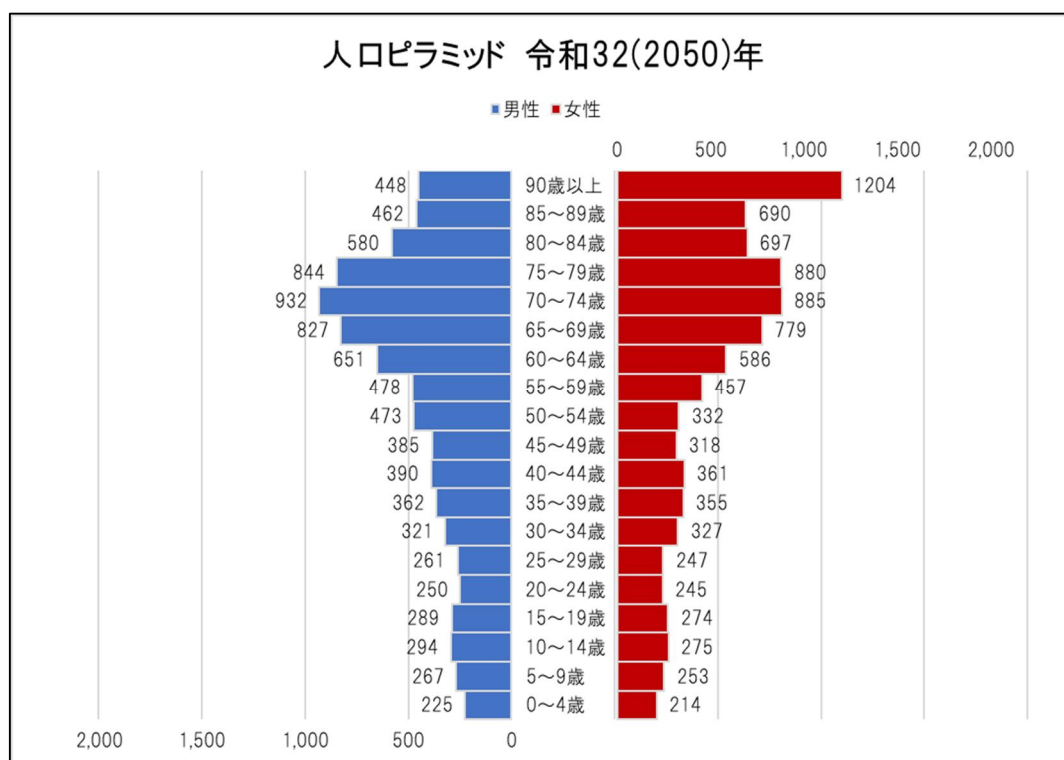
【嘉麻市の総人口の推移と将来推計】

本市人口は、令和 2（2020）年 10 月に実施された直近の国勢調査では、35,473 人となっており、国と同様に年々減少傾向にあります。「国立社会保障・人口問題研究所（社人研）」の試算によると、令和 22 年（2040）には 23,249 人、令和 32 年（2050）年には 18,118 人になると推計されています。



【人口ピラミッド】

社人研の試算を基に作成した令和 32（2050）年の人口ピラミッドは、逆ピラミッド型になると予測されており、生産年齢人口（15～64 歳）の割合が低く老年人口（65 歳以上）の割合が高くなっています。

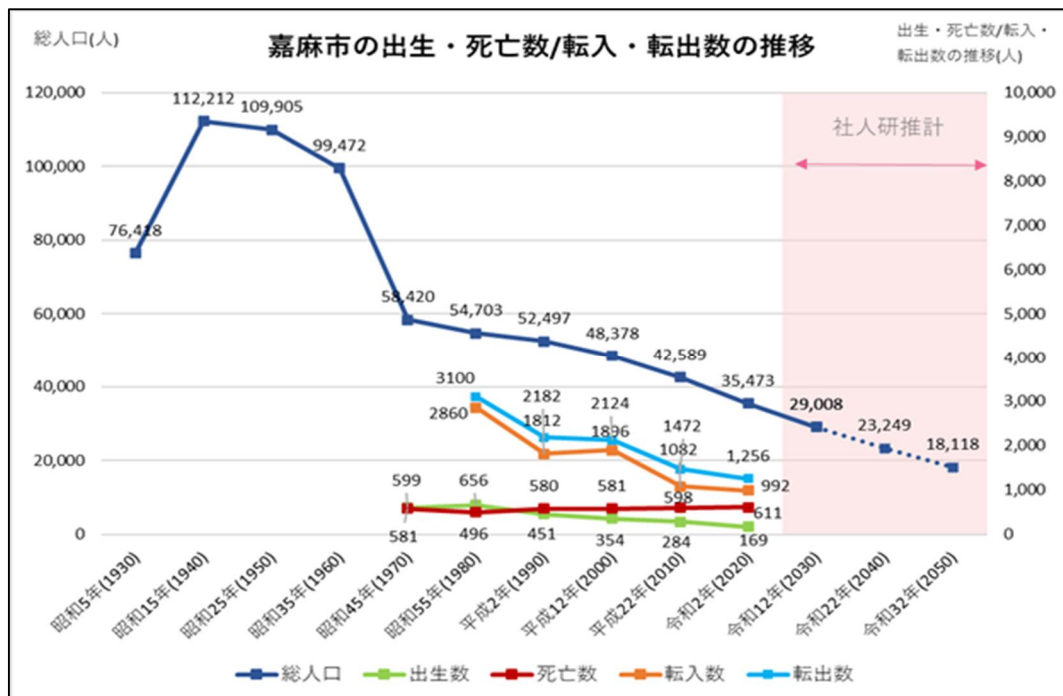


【嘉麻市の出生・死亡数／転入・転出数の推移 など】

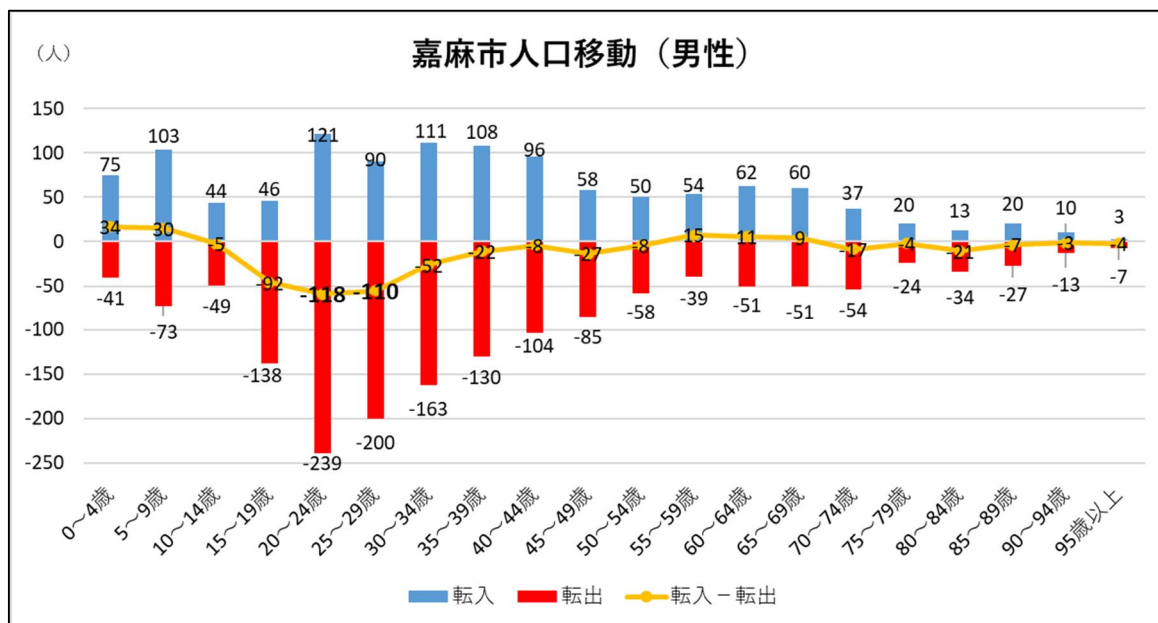
人口は、自然増減（出生数－死亡数）と社会増減（転入数－転出数）によって変動します。

令和2（2020）年における厚生労働省「人口動態総覧」による本市の自然増減を見ると、出生数169人に対して死亡数は611人であり、442人の自然減となっています。

また、社会増減については、転入数992人に対して転出数1,256人であり、264人の社会減となっています。

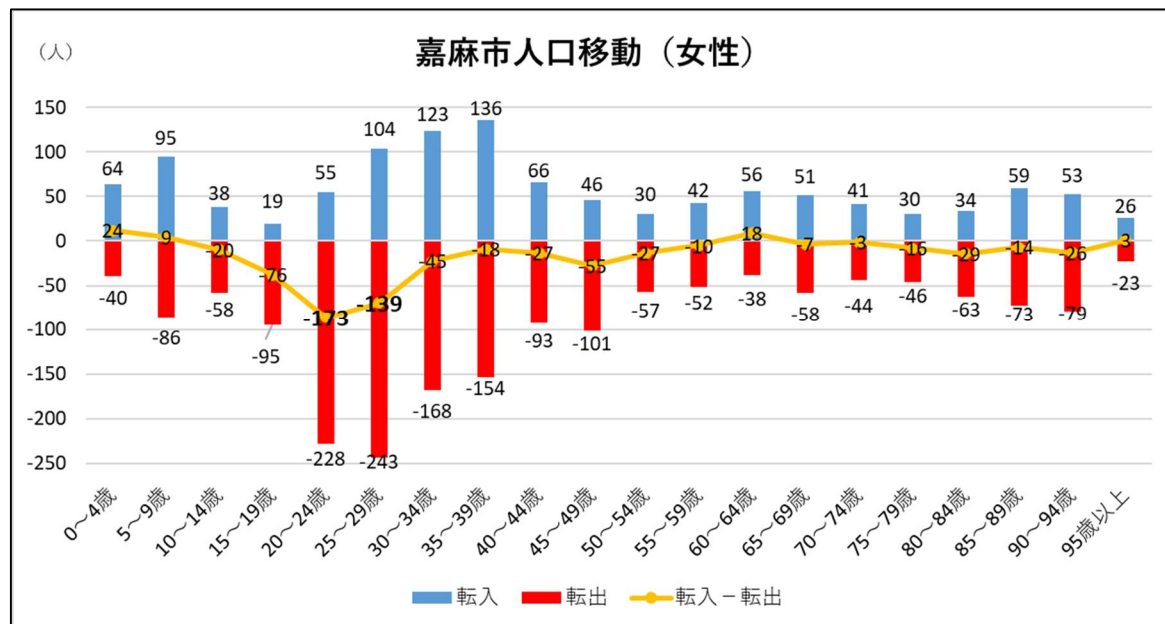


令和2（2020）年の国勢調査における男性の年齢階級別の人口移動の状況を見ると、15歳から34歳までの層の転出超過が大きく、特に15歳から29歳までは、100人前後の転出超過となっています。



また、女性の年齢階級別の人口移動の状況を見ると、男性と同様に 15 歳から 34 歳までの層の転出超過が大きく、こちらも 20 歳から 29 歳までは、100 人を大きく上回る転出超過となつています。

他市町村への進学や就職、結婚、子育てによるものが主な要因と考えられますが、この年齢層の転出は、将来人口に極めて大きな影響を及ぼすことになります。



【令和 47（2065）年度推計】

第 2 期策定時（ 社人研準拠推計 10,044 人 ・ 嘉麻市将来展望 17,033 人 ）

社人研準拠推計では、令和 47（2065）年の総人口は 10,044 人にまで減少すると推計されていました。

そのため、第 2 期総合戦略では、当該戦略に基づく人口維持のための各種取り組みで、社会増減を改善し、かつ、合計特殊出生率を向上させることにより、令和 47（2065）年の総人口を 1.7 万人台の維持・確保を目標にしたところです。

これにより、一定の成果を得られ、今期の社人研準拠推計による令和 47（2065）年の総人口見込みは 10,044 人から 12,275 人まで改善しましたが、目標の 1.7 万人台の維持・確保には程遠い状況です。

第 3 期総合戦略では、今までの取り組みの成果や反省点を踏まえ、さらに取り組みを強化し、総人口 1.7 万人以上を目指します。

